

全日本社会貢献団体機構 創立10周年 記念スピーチ

全日本社会貢献団体機構は、会員である皆様の信念と情熱によって支えられ、平成27年度をもちまして創立10周年を迎えました。ここに、創立10周年を記念し「第10回社会貢献大賞表彰式、平成27年度助成金贈呈式」における堀田力会長の記念スピーチを紹介させていただきます。



平成27年7月23日
全日本社会貢献団体機構 会長 堀田力

創立10周年を迎えましたが、本年も素晴らしい助成事業が揃っております。

これまでの10年、社会貢献大賞などの表彰数は125件になりました。これだけの数の団体や組織ががんばってこられた証です。

また、助成事業の方はこの10年間で257件、総額6億1千万円になります。

これまでに助成した団体は素晴らしい活動を行っています。それぞれの地域の思いをいかして、熱い思いを持って色々な分野で活躍しています。私も24年間、ボランティアの世界で助け合い活動を行ってきましたが、助成団体のリーダーたちは未来や希望を作り出す、素晴らしい方々が揃っています。これだけの方々の活動を支えることが、この機構としてできているのは、皆様のおかげでできているということは、大変素晴らしい大きな成果であると心から嬉しく思っています。

私が会長をお受けしたのが平成22年ですが、その翌年に東日本大震災が発生しました。その年以降、大震災からの復興を大きなテーマにして、各地のモデルになるような助け合いの活動、地道な地域の方々の活動を機構として支えることに重点を置いてきました。

マスコミも報道しないような、しかし地に足の着いた、被災者の生活にしっかり根を張った活動が広がるように助成が行われてきています。

日本で一番必要などころに、行政の手の届かないところに、手を差し伸べる活動を機構として展開できているということは、本当に頼もしく心強く感じます。

これからもそうした役割をしっかりと果たしていかなくてはならないということを実感しております。

日本社会はこれまでは経済を成長させ税金を納めていただいて、それで困っている人たちを支えていこう、という国作りで進んできましたが、経済が成熟して限界に達してきています。税金の力だけで支えるのは難しいので、医療保険、介護保険制度などを作りましたが、これも料金が上昇しており、もうサービスを縮小していくしかない。そういう事態になってきています。

サービスを縮小するという事は、弱者への支援を切り捨てるということです。

では、誰が支えるかということになりますが、人々や家庭は子育てや介護などに力を出し切っていて、余力はありません。では税金・保険料・家庭以外で残っている力はないのか？

日本に残っている力はあと一つだけあります。

それは「地域の力」。「助け合いの力」です。

同じ時代、同じ場所で生きている人間同士で支え合っていく。笑顔で豊かな心を持って支え合って、生きているのが楽しいと感じる社会を作り出していく、これが地域の力であり、これを支えるのが地域で暮らし、事業を行っているみんな力で力を合わせるしかないと思います。

皆さん方の力、熱い思いが増々問われていくこれからの10年間になるだろうと考えております。

みんなで力を合わせて前に進めれば本当に幸せだと感じております。

一緒にやりましょう。ご静聴ありがとうございました。